

THE OPPAIME@STER

PAIZURILLA GIRLS

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止





「今からイベントなのになんか、なんか、なんかしてたら
体操着汚れちゃいますって」



「あ、プロデューサーさんってば…
聞いてないし…」



「うやー」



「こんなにいっぱい...
これじゃあイベントとどろろごじゃ
なくなっちゃいましたね...♡」



「フアンの皆さんと触れ合いファンサービスって…
酷いですよプロデューサーさん…」



ズビュ

「アッ...」

ズビュ

ズビュ



「うう…せっかくのライブ衣装が
べとべとになっちゃいました…」

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ



「アイドルとして運動も大事って…
これはちよっと違うと思うんですけど…」



「えーこれ、プロデューサーさんばっかり動いて私の運動になってないですよー!」

ニャッ、30



「あっ……おっ……♡」



ズシズシ

んんん

ゴ

ズン

んん

グハッ...

「うう...またこんな...」



「ちよっ、ちよっ」とPちゃん何するにや!?!
え?みくの身体がいやらしいのが悪いって...
それ褒めてるのか貶してるのかどっち!?!」

「あ、15分Pチャンネルまっっつてっ...」
あーもう話聞いてないしっっっっっ♡「ん」



「んんんあー」



ズン
ズン
ズン

ズン
ズン

あ
あ

ズンズン

ズン
ズン

あ
あ

ズン
ズン



「もう:Pチヤン出しすぎたら...
臭い取れなくなったらどうしてくれるの?」

「事務所に着いた途端
パイズリさせるなんて
Pちゃん変態さんにやて♡

す
ろ
ろ
ろ
ろ

ん
ろ
ろ
ろ

す
ろ
ろ
ろ
ろ





「あっ…♡いいよPチャン
みくのおっぱいの中に
せーしいっぱい出して♡」

ぽんぽん
んんん
ぽんぽん
んんん

んんん
ぽんぽん
んんん



あはっ♡

「あはっ出た出たっ♡」

ズ
ン
ズ
ン

ゅ
ん

ん
ん
ん
ん
ん

ん
ん



「せーし服にかかっちゃってるにや
臭いとれなかつたら
責任とってよね♥」

どろろ

はぁ...

はぁ...

どろろ
どろろ
どろろ

♡
♡

「こんな格好させて：どうせみくのおっぱいで
おち○ちん挟んでほしかったんでしょ？
変態Pちゃんの魂胆はバレバシにや〜」



ぬ、30、30、30、30



おんま

おんま

おんま

おんま

「あは♡おっぱいの中ヌルヌル：
アイドルのおっぱいで射精しちゃうなんて
ほんとPちゃんに変態プロデューサーにや♡」

ほあ...♡

ほあ...♡

とろろ

ま

...

にゅにゅ♡





「んんん」

んんん

んんん

んんん
んんん
んんん
んんん

んんん

んんん



「大事な特攻服に盛大にぶっかけやがって
…そんなになに気持ちよかったのかよ…」

はあ…

ズッパッ

ズッパッ

ズッパッ

ズッパッ



「よおプロデューサー…こんな格好させておいて
ただで済むとは思ってないよなあ？」



「へへ！どうだまいったか？
これに懲りたら仕事の内容には気をつけるんだな」



「くっそ…てめえら、二人がかりとは卑怯だぞ！」



「痛っ…胸をおもちやみたいに扱いやがって…
射精すならさっさと射精せ！」



「んっ..」

んっ..

ズッ
グッ
グッ

んっ
んっ

んっ
んっ
んっ
んっ

んっ
んっ



「タイマンだったらこんな奴ら...
てめえら覚えておけよ...!」

ゴッ 30

おっ

だっ



「牛さんのお乳みたいにとり上げれば良いんですね? お安い御用です!」



「あは！出た出た」♡



「たくさん出ましたね〜えらいです〜
お乳は毎日絞らなくちゃいけないので
苦しくなったらいつでも言ってくださいね♡」

「よいしょ！今日は私が飼育員になって
プロデューサーのおち○ちんの
お世話させてもらいますね♡」

あーん

ん

ん

ん

ぐりりりり



「ああ、私がお世話するんですから
プロデューサーさんが動いちゃら
だめですってばあ、♡」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡





「あゝ♡ち♡ち♡ち♡ち♡ち♡ち♡」

ズッ

あゝ

ズッ

ち

ち

ズッ

ち

「ミルクたくさん出ましたね〜
溜まったらまた絞ってあげますね♡」

ズルズル

あ

あはは

ズルズル

♡♡

ずるずる





キーン

んっ

アッ

ゴッ

「順番に絞ってあげますから」



ニッコ
ニッコ
ニッコ

フィッ
フィッ
フィッ

グッ
グッ
グッ
ニッコ
ニッコ

「フィッフィッ... 眠持ちニッコでかっ。」



「あんこ♡こ♡み♡こ♡た♡し♡#6お♡♡」

あはは♡♡

とろろ♡♡

びび♡♡

♡♡♡♡



「おっぱいがミルクだらけになっちゃいました〜
みなさんよく頑張りましたね♡」

はぁ...♡
ズッ、ズッ、
ハッ、ハッ、

ズッ、ズッ、
ハッ、ハッ、
はぁ...♡

♡
ハッ、ハッ、
ハッ、ハッ、
はぁ...♡

ぬるぽっ

あーっ

「えへへ♥プロデューサーさんのおち○ちん
見えなくなっちゃいましたね♥」

「んっ♡気持ちいいですかプロデューサーさん？
おち○ちんどんどん硬くなってきたよ？」



ぽんぽんぽん

あゝ

ぬっ

たはんた



ズブズブ

ズブズブ

ズブズブ

「あっ♡あっ♡あっ♡」



とろろ...
はぁ...
♡

とろろ...
♡

とろろおん...
♡

「いっっぱいでましたね♡
気持ちよかったですか？プロデューサーさん♡」
♡

「えい！…あの、重くないですか？
ずっしりしてて心地いい…？
なら良かったら♡」

ぽん

ぷん
ぷん

ぽん

ぽん

ぷん
ぷん





あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡



「プロデューサーさんのミルク
おっぱいの中でまだせーし出てますよ...♡」



「せっかく皆さんのためにパイを焼こうと思ったのい…
え？こっちのパイの方がいい？…うらん？」



「んっしょ、んっしょ...もっし強くったくんですか?
これくらっでいいのかなあ...っ?」



「んや...」



「すげーいです...おっぱいがミルクだらけになっちゃいました」

ぽんぽん...
ぽんぽん...
ぽんぽん...

ぽんぽん...
ぽんぽん...

ぽんぽん...
ぽんぽん...